

令和8(2026)年産 水稻生育診断速報第6号

令和8(2026)年 10月23日

上都賀農業振興事務所

- 早期に秋耕を実施し、来年の土づくりを行いましょう。
- 再生稻(ひこばえ)を抑え、病害虫の生息場所を除去しましょう。
- 倒伏等でやむを得ず収穫できない場合は、適切に処理しましょう。

【秋耕の目的】

○ 土づくり

稲わらや稲株は、ケイ酸を含んでおり、水田にとって有効な有機物です。有機物の分解を促進するには、気温(地温)が高く、適度な湿度のある時期が望ましいため、収穫が終わった後が適期です。晩秋の耕起では、低温で土壌も乾燥しているため、有機物の分解が進まなくなります。

○ 病害虫防除

(ア) 斑点米カメムシ類

越冬前の斑点米カメムシ類にとって、出穂した再生稻(ひこばえ)は格好のエサになります。秋耕により再生稻をすき込むことで、えさや生息場所を減らすことができます。

(イ) イネ縞葉枯病(ヒメトビウンカ)

イネ縞葉枯病に感染した稲をヒメトビウンカが吸汁すると、縞葉枯病ウイルスを保毒したまま越冬し、翌年の感染源となります。

管内のコシヒカリほ場で縞葉枯病の発生を確認しており、秋耕によりヒメトビウンカの保毒率を減らすことで、翌年の初期発生を抑えることができます。



写真1 ヒメトビウンカ



写真2 穂の出すくみ

※ 倒伏等により収穫できない場合の対策(詳細は経営技術課資料へ)

① ほ場を乾かす

- ・排水路、水尻、暗きよのつまりを解除し、排水を徹底する。
- ・必要に応じて溝切りを行い、速やかに排水する。
- ・ほ場が乾いてから機械作業を行い、わだちや土の練り返しを防ぐ。

② 未収穫稲は気温の高い秋のうちに細かく裁断・すき込む

- ・フレールモア等で、未収穫稲を細断する。
- ・細断後は速やかに浅耕し、未収穫稲をすき込む。



③ 還元障害・減肥・漏生イネに注意し、翌年の生育に備える

- ・気温の高いうちにすき込むことで、ガスの発生など、還元障害の軽減を図る。
- ・翌年の作付では、基肥窒素をやや減らす。
(腐熟促進に使用した資材の窒素成分に注意)
- ・漏生イネ対策として、前年と同じ品種を作付けする。



農作業は安全第一！

- ・軟らかい地盤や傾斜があるほ場では、無理な作業は避ける。
- ・作業機の異物除去や点検・確認、清掃はエンジン停止後に行う。
- ・単独作業を避ける。(緊急時に連絡が取れるように)

